

『わたし、二番目の彼女でいいから。4』BOOK☆WALKER限定書き下ろしショートストーリー



浜波恵のツツコミ禁止日記

■○月×日

私はアオハルなテンションの、爽やかな女子高生のはずだ。
なのに最近、みんなから「浜波さんはツツコミキャラだね」といわれる。

それもこれも全部、あの人たちのせいだ。目の前で、ぶつとんだことばかりするから、私は思わずつつこんでしまう。だから、お笑いキャラを脱却するため、桐島先輩、早坂先輩、橘先輩に宣言した。
「私、もう二度とつつこみませんからね！」

■○月×日

廊下で桐島先輩とすれちがった。桐島先輩はメガネを上下、逆さにかけていた。

思わず、「ありえないケアレスミス！　そしてボケが細かすぎる！」とつつこみそうになったが、なんとか言葉を飲み込んで、「今日は天気がいいですね」と普通の世間話をした。

桐島先輩は残念そうな顔をしていた。

■○月×日

橘先輩が目の前でこけた。足元にはバナナの皮が落ちていた。
思わず、「今どきマンガでもそうはなりませんよ！」とつつこみそうになったが、その場でラジオ体操をすることでなんとか乗り切った。

橘先輩は無表情にいった。

「なんか、つままないね」

え？

私、つつこまないだけでそこまでいわれるんですか!? 理不尽!

■○月×日

早坂先輩が駆けよってきて、ふにゃふにゃと体をゆらし、照れくさそうにいった。

「こ、昆布〜!」

私は早坂先輩を抱きしめた。

どうか早坂先輩はそのままいてください。

■○月×日

どうにか私にツツコミをさせようと、三人がボケをかましてくる。

F Mラジオのパーソナリティ口調で話しかけてくる桐島先輩、アフロのかつらをかぶって登校してくる橘先輩、昆布につづいて電球や橋といった、ボケているのかもよくわからない物まねを披露してくる早坂先輩をかわしつつ、私は日々を送った。

かなりいい感じだ。

ツツコミキャラの卒業は近い。

■○月×日

桐島先輩が、相談事があるといって話しかけてきた。

私が警戒していると、ボケではないという。

「うちのオカンがさ、好きだったお菓子の名前を忘れてしまったらしいんだ」

「はあ、そうなんですか。ちなみにどんなお菓子なんですか?」

「ぱりぱりした、ジャガイモの薄切りっぽい感じのやつっていった」

「それはポテトチップスですよ。ポテトチップス以上にぱりぱりしたジャガイモっぽいお菓子なんてありませんよ。あそこの棚つてずっと顔ぶれかわらないじゃないですか。ジャガイモの新製品だすにもスティック状にしたりして、ぱりぱりから逃げるじゃないですか。かなわないんですよ、あのぱりぱりに。ジャガイモ界の横綱です。お母さんの好きなお菓子、絶対、ポテトチップスですよ」

桐島先輩は、「そっか、そっか」といつて去つていった。

■○月××日

また、桐島先輩に呼びとめられた。

「昨日の話のつづきなんだけど、どうやらポテトチップスではないらしいんだ」

「そうなんですか？」

「オカンにきいてみたら、食べるときはマナーに気を使うっていうんだ」

「じゃあ、ポテトチップスじゃないですね。ポテトチップスは寝ながら食べるものですからね。マナー違反をしながら食べることがマナーみたいになつてますから。最後は袋に口をつけて流しこみますし、礼儀なんてあつたもんじゃないですよ。ポテトチップスじゃないです」

「でも、飲み物はコーラを合わせたっていうんだ」

「それなら、やつぱりポテトチップスですよ。寝転がつてテレビをみながら、ポテトチップスをコーラで流し込む。それが日本のあるべき休日というものです。お母さんの好きなお菓子、まちがいないくポテトチップスです」

■○月××日

「いや、でもわからないんだ」

「なにがわからないんですか」

「オカンがいうには、元はフランスの上流階級のお菓子だっというんだ」

「ほなポテトチップスじゃないですね。ポテトチップスは一〇〇パーセント庶民のお菓子ですからね、まちがってもフランス上流階級とは無縁です。ドラクロワの絵のなかで国旗を掲げる人、銃を構える帽子の人、ポテトチップスカじるメガネの人、ついたらめちゃくちや浮きます。それはポテトチップスじゃないですよ」

「でもオカンによると、ゲームしながらは食べられへんっというのよ」

「ほなポテトチップスやないかい。ポテトチップスはゲームしながらは食べられないですよ。コントローラーがベタベタになっちゃうんで。おかげで、友だちの家に遊びにいつてゲームをしているとき、おやつにポテトチップスだとされると、ちゃんと手をふきながら遊んでますよ、と変な気を使う羽目になるわけです。いずれにせよ、手がべたべたになるのはポテトチップスです。決まりましたね、オカンの好きなお菓子はポテトチップスです！」

「でもオカンがいうには『ポテトチップスではない』っというんよ」

「ほなポテトチップスちゃうやないかい！ オカンが『ポテトチップスではない』っというたら、ポテトチップスではないんですよ！ 先いつてくださいよ！ 私がドラクロワとか力説してたときどう思ってたんですか！」

「申し訳ない」

「も、一体どうなってるんですか！」

「オトンがいうには、ちゃんこ鍋ちゃうかっというんよ」

「絶対ちゃうやろ。もうええわ」

「「ありがとうございます」」

『わたし、二番目の彼女でいいから。4』BOOK☆WALKER限定書き下ろしショートストーリー

ちぎしよ〜〜〜!!

(日記は「なんでやねん」の文字で埋め尽くされている)